

ここに注目！



外部との連携や若手の起用による機動的な事業実施体制を確立

ポイント

JR おおいたシティの開業等で、県都大分市中心部の商店街を取り巻く環境は大きく変化している。県内外から多くの集客を商店街に呼び込むため、毎月 1 回、商店街と外部の人が交流する場を企画。新たな集客事業開始のきっかけになっている。また、事務局やイベントスタッフに若い人材を活用することで、新たな発想や外部連携の推進につながり、多様な世代が楽しめる商店街として市民に定着しつつある。

【現状分析及び課題抽出】

Plan

歴史的転換を迎える大分市中心部の商店街

大分市の中心部は、平成 27 年春に大分駅に併設する JR おおいたシティや大分県立美術館がオープンすることで「100 年に一度」の歴史的な転換を迎えると言われている。本商店街は人通りが多く、「セントポルタ中央町」という名称で市民に親しまれているが、中心市街地の人の流れが変わることを踏まえ、当商店街も若者にも楽しんでもらえる取組が必要である。しかし、本商店街はテナント店舗が多く、商店街活動を十分に遂行できる人員が不足していることが課題である。

【対応策の優位性】

Do

若手店主が中心となった新たな取り組み

本商店街組合の事務局の若返りを図り、若手店主に呼びかけたことで、商店街活動を担う人材が増えつつある。事業ごとに若手店主に商店街活動参加を促し、店舗同士の連携を図り、商店街全体のイベントとして定着してきた。

さらに、平成 26 年度より毎月 1 回「まちなか井戸端ナイトカフェ」と題して、商店街と外部の若者との情報交換の場を開催しているほか、アルバイトを公募し、「街づくりに今後も協力したい人材の発掘」を図り、事業を遂行している。

また、若者が中心となって街づくり活動を行う任意

基本データ

大分市中央町商店街振興組合

所在地:大分県大分市中央町

人口:約 48 万人(大分市)

会員数:64 名

店舗数:270 店舗(買回品小売店 35、最寄品小売店 32、飲食店 78、サービス店 75、その他 50)

商店街の類型:広域型商店街

主な客層:高齢者、会社員、主婦

関連 URL:<http://centporta.com/>

商店街概要

本商店街は大分駅前に立地し、付近には、大分県庁、大分市役所などの官公庁もあり、大分県一の人通りの多い商店街である。また、大分中心部を代表する商店街でもある。ファッション性の高い商品群や娯楽などの総合型の商店街として、近年では飲食店の増加もあり、大分市中心部の商業集積づくりに寄与している。



人通りの多い商店街(左)／「まちなか井戸端ナイトカフェ」(右)

組織「おおいた街活の会」と積極的に協働・連携して事業に取り組んでいる。

【効果の評価及び改善策】

Check-Action

楽しんでもらえる空間づくり

外部との交流拠点となる「井戸端ナイトカフェ」開催により、新たな集客事業「セントポルタ de ダンス」の毎月 1 回の開催が実現した。イベント開催時は、地元学生もボランティアスタッフとして参加している。

また、「まち教室」や「まち歩き」等の商店街の魅力、個店の魅力を発信する事業に取り組んだことで、本商店街への新規出店にもつながっている。雑貨や美容、飲食店など、流行に敏感な若い世代をターゲットとする店舗も増え、平成 22 年に 12.3%だった空き店舗率が、平成 26 年には 8.5%に減少した。

事務局の改善策として、組合費集金のインターネットサービスによる自動引落化を推進。事務局の業務負担軽減で、補助事業活用が可能になり、イベントなどの自己負担軽減、集客イベント増加につながっている。また、事務局に若い人材を雇用することで、新たな発想や外部連携ができ、ソフト事業の強化にもつながっている。

個店の売上向上施策として、県の補助事業を活用し、外部講師による魅力ある店づくり事業を行っており、事務局がサポートできる体制が実現している。しかし、全体の魅力発信、集客力の点で課題があり、今後は商店街全体として連携する事業の実施とともに、近隣商店街にも連携を促し、中心市街地全体で集客効果を生

むことで、「楽しんでもらえる空間づくり」を図る。

[実施体制等]

外部団体との積極的な連携

周辺商店街、商店街連合会、他団体（県中小企業団体中央会・商工会議所・青年会議所など）と、民間（官民共同まちづくり機関・若手個人事業主の団体・商店街若手店主の団体・地元ものづくり団体など）とが連携してイベント等を実施している。なお、実施にあたっては国・県・市等の補助金を効果的に活用している。



新たな集客事業「セントボルタ de ダンス」の開催



キーパーソン

大分市中央町商店街
振興組合

理事長 小橋 雅治
(右)

事務局長 太田 和幸
(左)

継続することの重要性

平成 25 年に役員・事務局体制が変わり、ソフト事業の企画・運営は副理事長及び事務局が役割を担うようになりました。そこで、「商店街でPRしたい」という地元アーティストやクリエイターの声をきっかけに、他団体と連携し、毎週末に大分のアーティストによる路上ライブや大分のクリエイター作品の展示・販売等に取り組み始めました。最初は、問題だらけでしたが、一つ一つ解決していくことで、イベントのクオリティも上がりました。また継続して開催することで市民に定着し、集客数の増加と同時に、やる気のあるアーティストやクリエイターが集まり、商店街事務局だけでなく、自らもイベントの告知を行っているため、低予算で事業を進めることができます。今では、組合員やボランティアスタッフなど若い人の参加も増え、「継続すること」の

重要性を改めて感じています。

競争から協創（きょうそう）へ

今後は若年層の地元フリーランスの方々とも交流を深め、イベントの際にデザインや印刷物等などの仕事を依頼することで、大型代理店よりコストカットするとともに、街なかの活動の担い手を増やしたいと考えています。中心市街地の商店街は「交流拠点」となっていますが、私達は、商店街＝舞台と捉え、「知ってもらふ場所」と考えています。事務局は、全ての出演者に事前に会って、「商店街は舞台であり、演者は皆さんです。街を活用する最大のメリットは、知ってもらふきっかけになることです。」と伝えています。さらに、地元で活躍している若手のアーティストやクリエイターに、街なかを活用してもらうことで、今まで街なかの顧客ではなかった客層の取り込みも可能となります。

今までの物事の視点は連携ではなく「競争（きょうそう）」でしたが、今後はお互いの利害関係を一致させることができるよう、事務局が緩衝材やつなぎ役としてのパイプラインを創りだし、共に取り組み、お互いの強みを活かし、「協創（きょうそう）」していくことが商店街の発展につながると考えています。